

世界農業遺産「大崎耕土」に関する映像集の紹介

大崎市世界農業遺産推進課 三宅源行

1. 大崎地域について

大崎地域は宮城県北部に位置する1市4町（大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町）のことを指します。

西部の山間地帯は奥羽山脈が連なり、自然豊かで観光業が盛んです。

紅葉で有名な『鳴子峡』、ラムサール条約登録湿地に指定された『蕪栗沼（かぶくりぬま）』『化女沼（けじょぬま）』は全国的にも有名です。

また、山岳地帯から広がる広大な山地では畜産や野菜の栽培、中央部・東部の平坦地では宮城の代表米でもある「ササニシキ」や「ひとめぼれ」などの生産が行われています。

素晴らしい自然と農業の発展が大崎地域を豊かなものとしてきました。

2. 世界農業遺産「大崎耕土」の映像集について

大崎地域の厳しい自然環境を先人の知恵と努力によって、共存してきた大崎耕土は、2017年にその価値が認められ、世界農業遺産に認定されました。

継承されてきた、「巧みな水管理」「豊かな農作物」「伝統的な農文化」「生き物との共生」「特徴的な景観」、また、これら全体の“つながり”こそがこの大崎地域の魅力です。

そんな人と大自然が紡いできた価値を余すことなく、伝えるため、映像集を作成しました。

大崎耕土の全体像を解説した映像や、屋敷林「居久根」を360度VRで体感して頂ける映像のほか、シナイモツゴが再発見された大崎市鹿島台の「桂沢ため池」を紹介した映像もございます。

この機会にぜひ、ご覧ください。

大崎耕土映像集

<https://osakikoudo.jp/movie/>



PR映像



イメージ映像/
解説映像



3. 第1回全国農泊ネットワーク宮城大崎大会 映像のご紹介

未来の時間を生きる僕たちへ ―自然と人と心を繋ぐツーリズム― 構成・脚本・監修 高泉 淳子 氏

―昨年の9月に第1回全国農泊ネットワーク宮城大崎大会を開催しました。全国から300人以上がオンライン参加し、農泊のさまざまな実践報告やその意義と可能性について議論しました。全国各地の農泊関係者が交流する催しとなりました。

この大会に合わせて、大崎地域の農泊の今と可能性を発信するショートフィルムを作成しました。

このショートフィルムは大崎市古川出身の役者、劇作家、演出家で、おおさき宝大使でもある高泉淳子さんに構成・脚本・監修をしていただき、大学進学を機に関東で暮らし始めた大崎市出身の若者が、大崎地域で農業やグリーンツーリズム・農泊を実践している人との交流を通じて、大崎地域の魅力を再認識していくストーリーとなっています。

下記サイトで公開していますので、ぜひご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=Z3CgC7x9_sQ



4. おおさき生きものクラブ10周年記念「生物多様性フォーラム」(仮称)の開催について

本市では、NPO 法人シナイモツゴ郷の会の皆様にもご協力をいただき、本市の生物多様性分野における人材育成を目指し、市内各地で生きもの調査・観察会を行う「おおさき生きものクラブ」を2013年から実施してまいりました。

来年度、10周年となることから、それを記念した生物多様性フォーラムを予定しております。小学1年生だった子は高校生、小学6年生だった子は大学生になっています。彼らの成長とこれまでの活動を振り返る催しを予定しています。詳細が決まり次第、お知らせをいたしますので、ぜひ、ご参加ください。